



京都教区90年、そのはじまり

— 祈りと決断、戦争の中で受け継がれた信仰 —

2027年、京都教区は創立90周年を迎えます。

この節目にあたり、メリノール宣教会の記録を手がかりに、教区誕生へと至る祈りと決断、そして戦争の苦難の中で受け継がれた信仰の歩みを10回の連載でたどります。

京都司教 十パウロ大塚喜直

第1回 京都教区誕生の前夜 — 京都・滋賀を新しい宣教地へ —

1930年代初め、まだ「京都教区」という名はありませんでした。当時、京都・滋賀・奈良・三重は、大阪・兵庫・和歌山とともに、2府5県に及ぶ大阪教区に属していました。しかし、その広大な管轄地域に比べ、司祭の数や財政的な基盤、宣教の拠点は限られていました。各地に暮らす人々のもとへ福音を届け、それぞれの地域に根ざした教会共同体を育てるためには、従来の体制を見直し、新たな宣教の道を開く必要があったのです。

日本教会の宣教区域再編の動き

そのころ、日本のカトリック教会では、広大な教区を再編し、それぞれの土地により根ざした宣教と司牧の体制を整える動きが進んでいました。各地に新たな宣教区域が設けられ、限られた人員や資金の中でも、福音がまだ十分に伝えられていない地域へ宣教師を派遣しようとする努力が重ねられていました。京都と滋賀を新しい宣教区域とし、別の宣教会に委ねるという構想も、こうした日本の教会全体の歩みの中から生まれました。この計画は、後に奈良と三重を含む現在の京都教区へと発展していきます。



教皇ピオ11世

福音が土地に根付くために

その背景には、普遍教会が示していた宣教の方向性がありました。教皇ピオ11世は、1926年の宣教に関する回勅『レールム・エクレジエ』において、宣教地の教会が外国人宣教師に依存し続けるのではなく、その土地に根を下ろし、現地の聖職者に担われる地方教会へと成熟することを求めました。宣教とは、外国から来た宣教師がいつまでも中心であり続けることではありません。福音がその土地の人々の信仰と生活の中に根つき、やがてその教会が自ら歩んでいくことを目指す営みだったのです。

カスタンニエ司教の決断

パリ外国宣教会の宣教師として日本に派遣され、当時、大阪教区司教を務めていたジャン・バティスト・カスタンニエ司教 (Jean-Baptiste Castanier, M.E.P., 1877-1943) は、こうした普遍教会の宣教方針を受け止めていました。メリノール宣教会の記録によれば、カスタンニエ司教は、限られた人員と財政のもとでは、広大な教区に暮らす多くの人々に十分にキリストを知らせることは難しいと考えていました。そこで、自分たちだけですべてを担い続けるのではなく、他の宣教会と協力し、新たな宣教区域を築く道を模索しました。それは、より多くの人々のもとへ福音を届けるために、教会の使命と働きを分かち合おうとする積極的な決断でした。長年にわたって育ててきた宣教地の将来を、新た



大阪教区長
ジャン・バティスト・
カスタンニエ司教

写真提供：パリ外国宣教会
史料研究所（IRFA）

な担い手に託すことは、決して小さな決断ではありませんでした。それでもカスタンニエ司教は、自分たちの事情にとどまらず、教会全体の使命を優先し、新しい協力の道を選んだのです。

その構想の中心に置かれたのが京都でした。京都は、日本の歴史と文化、宗教の中心地であり、宣教にとって容易な土地ではありませんでした。しかし同時に、日本社会に福音を伝えるうえで、きわめて重要な都市でもありました。カスタンニエ司教は、京都と、その東に位置する滋賀を一つの宣教区域とし、新たな担い手に託すことを考えました。

メリノール宣教会との出会い

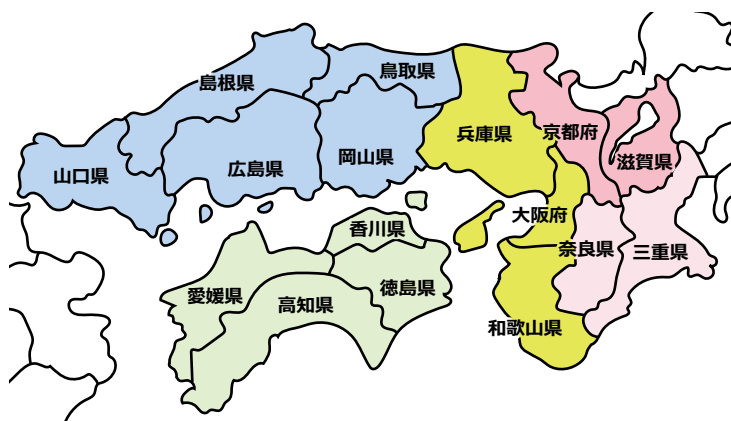
そこで浮かび上がったのが、1911年にアメリカで創立されたメリノール宣教会（The Catholic Foreign Mission Society of America、通称 Maryknoll Fathers and Brothers）でした。同会はアジアにおける宣教に力を注ぎ、日本でも新しい宣教地を担う可能性を探っていました。当時の駐日教皇使節エドワード・アロイシウス・ムーニー大司教（Archbishop Edward Aloysius Mooney, Apostolic Delegate to Japan, 1882－1958, 在任1931－1933）は、大阪教区とメリノール宣教会との間を結び、この構想を後押ししました。こうして、大阪教区の願いとメリノール宣教会の志が出会い、京都・滋賀への道が少しずつ開かれていったのです。

これは、単に教区の一部を切り離すという行政上の再編ではありませんでした。自分たちだけで使命を抱え込まず、教会全体のために働きを分かち合い、大切な土地を新しい担い手へ託すという宣教の決断でした。まだ名も形もなかった京都教区は、祈りと協力、そして使命とともに担う勇気の中で準備されていきました。

大阪教区の宣教区域の変遷

1880年、大阪教区は近畿、中国、四国の3地方すべてに福音を告げ知らせる使命を担っていた

- 四国知牧区 1904年分離
- 広島代牧区 1923年分離
- 大阪教区
- 大阪教区 京都と滋賀を京都教区へ
- 大阪教区 奈良と三重も共に京都教区へ



京都教区の原点から学ぶ

創立90周年を迎える私たちも、この原点から学ぶことができます。人や力の不足を嘆くだけでなく、互いの賜物を生かし、使命をともに担うとき、神は新しい道を開いてくださいます。京都教区の始まりにあったこの精神は、今の共同宣教司牧にもつながっています。

今回は、この呼びかけに応えようとしたメリノール宣教会が日本へ向けたまなざしをたどります。